



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH

Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1992-3 *Real Happiness is Helping Others* まことの幸福は人助けから
1992-3年度国際ロータリーのテーマ/クリフ・ダクターマン R.I.会長

●本日の例会

2月26日 第311回例会

■夜間例会 (レディース・デー)

ファミリーコンサート

- ・ソプラノ独唱/石崎 澄子氏(石崎会員令嬢) ピアノ伴奏/泉 晶子氏
- ・ヴァイオリン独奏/山下 忠治君(当クラブ会員) ピアノ伴奏/泉 晶子氏
- ・ピアノ独奏/泉 晶子氏



「鎌倉」

文部省唱歌

ソングリーダー/二宮利泰君 ピアノ伴奏/泉晶子さん

七里ヶ浜のいそ伝い 稲村ヶ崎 名将の 剣投ぜし古戦場

●先週報告

2月19日 第310回例会

■卓話 「いまソフト・ハード・ハートの時代 どうしてなの」

慶應義塾大学商学部教授・商学博士 村田 昭治 氏

■幹事報告 地区大会へ会員の皆様より80%の登録をいただきました。ありがとうございます。登録料は至急事務局へお支払いいただきますようお願い申し上げます。

■会員増強委員会 (渡邊委員長)

2月5日地区会員増強委員長会議に出席いたしました。地区での目標は各クラブ10%増ですが、当クラブの目標は純増8名です。引き続き12運動の推進にご協力ください。

■慶事披露 お誕生日/佐藤 幸雄君(2月20日)、石崎 幹雄君(2月20日)

■出席報告 会員70名中 出席45名、欠席25名(内出席免除者3名)/2月12日修正出席率91%
ビジター(都内8名、敬称略)/山崎完(東京)、宮崎英一郎・長岡實・吉越亘(以上東京新橋)、松方清・H.Schmidt・立石信義・山内豊秋(以上東京南)
ゲスト/クリスティアン ブンセン氏(宮本会員ゲスト)



■米山記念奨学生会より、財団設立25周年記念「奨学会史」発行のお知らせ

1部 ¥5,000 ※お申し込みは事務局へお願い申し上げます。

■他クラブ例会臨時変更 各クラブ共、第2750地区地区大会(3/12・13)に振替

3/9(火): 東京新橋RC、東京みなとRC、東京西南RC

3/10(水): 東京日本橋西RC、東京城西RC

3/11(木): 東京中央RC、東京成城新RC、東京杉並RC、東京城南RC

3/12(金): 東京西RC、東京シティ日本橋RC



順不同、敬称略

2月19日●10件/¥24,250
多額のご寄付をありがとうございました。

本年度累計/¥1,687,758

●小湊 雅亮/村田先生お忙しいところありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

●勝山 英司/20年前の恩師をお迎えして ●渡邊 治/会員増強委員会の会合を本日もちました。委員の方にご参加いただきありがとうございました。●関 征春/小湊先生社員がお世話になります。●川鍋 二郎/先日は宮本さん大変ありがとうございました。●高須 康有/欠席が続き申し訳ありませんでした。宮本さん先日はごちそうさまでした。●宮本 正祥/川鍋さん、高須さん、関さん、吉田さんありがとうございました。●横山 秀明/四分一さんお世話になりました。●小西 暲也/冷たい風は吹いていますが、日差しはだんだん春めいてきました。●四分一 勝/小西さんがニコニコの前でニコニコしていたので。昨晩は楽しかった。

●次回予告

3月5日 第312回例会

■卓話予定 イニエーションスピーチ「建築設備と地球環境について」

当クラブ会員・株隆設備設計事務所代表取締役 佐々木 忠行君

●寄稿 「国際理解について」



E.ANTHONY.ZALOOM
(当クラブ会員)

2月是世界理解月間です。又2月23日はロータリー創立記念日、その後1週間は世界理解と平和週間です。

国際理解という問題は、世界に各民族が存在して、国家があるかぎり、大変重要でありかつ不可避のテーマですが、特に現代のように政治的にも経済的にも、「国境」の持つ意味が小さくなり、人・物・金の国家間の移動が激しくなってくると、国際理解の重要性はますます大きくなってきていると感じています。

私は仕事柄、アメリカのみならず、アジア、ヨーロッパにしばしばビジネスで参りますし、各国の友人、同僚との交流もありますので、国際理解という大きな難しいテーマに対して、経験から私なりの思いを述べてみたいと思います。

「百聞は一見にしかず」とはよく言ったもので、各国に訪れてみると、それまで書物やテレビで得ていたイメージと全く違った新鮮な印象を受けることがよくあります。これはアメリカから日本に来ている女子留学生が話していたのですが、「日本は安全な国だとは聞いていたが、実際に来てみて驚いた。帰る時のことを心配しないで夜遅くまで図書館で勉強できるなんて、日本の学生はうらやましい。」と言うのです。日本に来る前、どれだけ耳で聞いていても、実際日本に来て、夜の町並みを歩いたり、地下鉄に乗ったりして感じる雰囲気は想像できなかったのでしょうか。

このことは逆に、特に短期間の旅行のような場合、その滞在中に起こった、たったひとつの出来事が、その国に対する印象を決めてしまうという恐ろしさもあると思います。例えば、初めて行った旅先で、それまで快適な旅を楽しんでいても、たまたまスリにやられると、一度に不快な思い出になってしまうこともあります。私なども、難しい問題を抱えて訪れた仕事先で、思わず非常によい結果が得られたりすると、その旅行全体がとてもよいイメージで記憶に残ったという経験があります。

どうしても、多くの人は、このように、ちょっとした出来事から、その国や国民に対する印象を持ってしまいがちです。

しかしながら、これが長期の滞在、例えば、海外駐在や長期の留学となると、話は違ってくるように思います。私もそうですが、ほとんどの友人、同僚たちは決まって、自分が住んだことのある国のことを非常によいところであると言うのです。例えば学者をしている友人の一家は、ブラッセル駐在が決まってすぐは言葉もわからないし、大変不安そうに出国していきましたが、5年後帰国すると、ベルギーほどよい所はないといわんばかりの様子でした。しかし、おもしろいのは、その場合でもよく話を聞いてみると、5年間楽しいことばかり体験してきたわけでもないのです。というよりむしろ聞いている方が気の毒になるような、苦勞話（子供の病気の時言葉が通じなくて救急車が呼べなかったことやホテルでの盗難など）が次から次へと出てくるのです。それでも彼らはベルギーはとてもよい所だった、皆からよくしてもらったと話すのです。このような話は他の友人からもよく聞きます。

つまり、旅行者として経験すれば一回でいやになってしまうような出来事も、その国に滞在して多くの体験のひとつとして遭遇すると、よい思い出のひとつになってしまうのです。このことを、色々と苦勞の多い海外生活を何とか乗り切るための苦しまぎれの楽観主義と見ることもできるかもしれませんが、見方を変えれば、「住めば都」という諺のように、生活者として、長い目で見て対処すれば、困難な問題も解決可能だし、何かしらその土地なりの長所を見出し楽しむゆとりを持てるのではないのでしょうか。

もちろん国際理解を深めるために、すべての他の国に住む、訪れる、というようなことは現実的ではないし、必要なことでもありませんが、上に述べたような考え方をもってすれば、相互理解というものは、そう難しいものではないのではないか、と感じています。

よく国家間の外交問題などで、「顔の見える外交を」というような言葉を耳にしますが、国際理解を深めるという問題一般についてこのことはあてはまると思います。あまり難しくとらえるのではなく、人的交流、一対一のコミュニケーションを大切にすることから、大きな問題を解決し、誤解やトラブルを防ぐことにつながっていくのではないかと思います。例えば当クラブでも推進されている交換留学生制度やクラブ間の国際交流といった活動そのものが今後ますます重要となる国際理解の大きな助けになると確信しています。

東京新南ロータリークラブ

会長：柴本芳郎 副会長：宮武保義 幹事：入沢頼二
〒107 東京都港区赤坂2-22-19 南部坂アネックス201号

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日・12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

会報委員

荒木 昭文、新保 國彦、田中 武
鈴木 文、大日方 真

●2月度編集担当者／青野 信次

●卓話テーマ翻訳／渡部 一元

●印刷／豊園堂印刷（株）